感染症

相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第47週)

（令和8年11月16日～令和8年11月22日）

令和8年11月26日

定点報告（上段：定点当たり／下段：報告数）、全数報告（報告数）

区　分	疾　　病　　名	2026年 44週	45週	46週	47週	合計	2025年 合計	2024年 合計
定点報告	インフルエンザ	6.00	10.33	12.33	16.33	－	－	－
		18	31	37	49	859	2,558	1,616
	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	1.33	2.33	1.33	2.00	－	－	－
		4	7	4	6	282	1,139	3,622
	RSウイルス感染症	9.00	5.50	3.00	3.00	－	－	－
		18	11	6	6	75	156	309
	咽頭結膜熱	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	9	78	337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.50	1.50	1.00	2.50	－	－	－
		5	3	2	5	142	243	657
	感染性胃腸炎	－	1.50	－	0.50	－	－	－
		0	3	0	1	147	430	610
	水痘	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	8	10	6
	手足口病	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	136	15	952
	伝染性紅斑	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	141	0
	突発性発しん	－	0.50	－	0.50	－	－	－
		0	1	0	1	23	59	182
	ヘルパンギーナ	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	16	4	19
	流行性耳下腺炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	1	10	13
	急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	2	2	9
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	－	1.00	－	－	－	－	－
		0	1	0	0	5	16	1
	クラミジア肺炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	1.00	－	－	3.00	－	－	－
		1	0	0	3	33	42	16
	無菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－
		0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ入院	－	1.00	3.00	1.00	－	－	－
		0	1	3	1	17	39	19
	新型コロナウイルス感染症（入院）	－	1.00	－	－	－	－	－
		0	1	0	0	28	56	120
	急性呼吸器感染症（ARI）	62.67	65.33	64.33	75.00	－	－	－
		188	196	193	225	8,005	8849	－

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	インフルエンザとRSウイルス感染症の流行が見られます。

インフルエンザ	**相双地域及び県（県内総数）は、前週と比較して増加しました。※注意報** 県内では5週続けて増加しており、今後、感染者数がさらに増加するおそれがあります。感染の拡大を防ぐため、普段と体調が異なる場合には出勤や登校を控えるなど、体調管理に留意するとともに、手洗いの励行、場面に応じたマスクの着用など、基本的な感染対策をお願いします。また、ワクチンはインフルエンザの発症や重症化の予防効果があるので、接種を検討してください。
新型コロナウイルス感染症	**相双地域及び県（県内総数）は、前週と比較して増加しました。** 昨年の同じ時期と比べると低い水準で推移しています。基本的な感染対策を徹底し、感染に注意しましょう。
RSウイルス感染症	**相双地域で流行が見られます。** RSウイルス感染症は、RSウイルスによる呼吸器感染症です。飛沫感染や接触感染により感染し、4-6 日の潜伏期間の後、風邪様症状等、様々な症状が生じます。特に1 歳未満の乳幼児の初感染では気管支炎、肺炎等症状が重くなる場合があり注意が必要です。インフルエンザと同様基本的な感染対策が重要であり重症化予防には妊婦や60 歳以上を対象としたワクチンが有効です。
マイコプラズマ肺炎	**2024年、2025年と同様、冬季の増加傾向が見られます。** マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマと呼ばれる細菌に感染することで発症する呼吸器感染症で、小児や若年層を中心に流行します。感染経路は飛沫感染や接触感染で、感染してから2～3週間で発熱や全身の倦怠感、頭痛、痰を伴わない咳などの症状が見られます。軽症例がほとんどですが、重症化する事例もあるため、長引く咳などの症状がある場合は医療機関を受診しましょう。
侵襲性肺炎球菌感染症	**本県で2例報告がありました。** 侵襲性肺炎球菌感染症は、肺炎球菌が髄液や血液に侵入することで生じる感染症です。小児及び高齢者を中心に飛沫感染により感染し、髄膜炎等を伴う肺炎や、敗血症を生じます。予防にはワクチン接種が有効ですので、特に定期接種対象の方は早期のワクチン接種を推奨します。

インフルエンザが流行しています。感染の拡大を防ぐため基本的な感染対策の実践をお願いします。

・咳やくしゃみ等の症状があるときは、マスクを着用したり、鼻や口をティッシュ等で覆うなど、他の人への感染拡大防止に努めましょう。
・通院や医療機関・高齢者施設など訪問するとき等は、感染予防としてマスクを着用しましょう。
・流水・石けんによる手洗いは手指など体についたウイルスを除去するために有効な方法です。こまめな手洗いに努めましょう。
・室内ではこまめに換気をしましょう。窓開けによる換気は、対角線上にあるドアや窓を2か所開放すると効果的な換気ができます。
・普段と体調が異なる場合には、出勤や登校を控えるなどの体調管理に留意してください。

（参考・引用）福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第47号